

平成31年度 調布市立第四中学校 学校経営計画

| | |
|--|--|
| 学校教育目標 心ゆたかに 体たくましく 賢い生徒 の育成 | |
| 目指す学校像(ビジョン) ・オリンピック・パラリンピック教育を通じ、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。 ・障害者理解を通じ、自他ともに人権を尊重する姿勢を育成する。 ・生徒が生き生きと活動し、自己の心身の成長を実感できる学校をつくる。 ・自主活動力・自己向上力を活用し、一人一人が有用感をもつ。 ・教職員は、「指導と評価の一体化」を目指す。適切な課題を提示し、指導に即した、わかりやすい評価を明示する。生徒を励まし、愛情深く接する。 ・生徒自身、保護者、教職員、地域住人、市教育委員会が相互に連携し、心豊かな生活を送る。 | |
| 本校の現状と課題 (1) 大変落ち着いた、穏やかな学校生活(学習・生徒会活動・部活動)を過ごしている。現状に甘んずることなく、学校改善(授業改善・いじめ防止・自己有用感の向上)に取り組む。 (2) 「主体的・対話的で深い学び」を生かし、意見交換や表現活動を多く取り入れる。学力の向上や道徳教育をさらに推進する。 (3) 保護者、地域、市教育委員会、関連諸機関と連携、協力し、生徒の健全育成を図る。 | |

| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する |
|--|------------------------------------|---|--|--|
| 学 力 向 上 | 個々の特質や適正に即した指導を工夫し、進んで学習する意欲を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の推進 学習意欲の向上 特別支援教育の充実 不登校生徒の減少 | <ul style="list-style-type: none"> 教科の枠を越えた「主体的・対話的で深い学び」の活用研修に取り組む。 道徳授業を通じて習得した、「主体的・対話的で深い学び」の指導法を、教科授業で拡大活用する。 教職員から励ましの言葉を多く生徒に伝える。 適正な評価を行い、自己有用感を高める。 不登校対応教室の設置により、完全不登校生徒(自宅に閉じこもる生徒)はほぼなくなった。不登校対応教室から、通常授業への復帰促進指導の手段、手順の確立を研究する。 合理的配慮を進化・発展させる。 特別支援教室(通級教室)の開設、運営に当たっては、市教委や拠点校(八中)と十分な連携を取る。常に改善の姿勢をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> 「分かる授業・できる授業」を推奨し、年6回の土曜日授業参観で実態を保護者、地域に周知し、アンケートで成果を検証する。 「適正な評価」に関する研修会を3回実施する。 全ての授業で、ねらいを明確に示し、それに即した評価を行う。 発達障害や特別支援教育の校内研修会を年5回実施する。全教員が参加可能な環境を作る。スクールカウンセラー等専門家を講師に招く。 特別支援推進委員会を年30回程度開き、スクールサポーターや特別支援教室専門員等の活用や組織的対応方法を推進する。 不登校対応教室「よつば」の運営を拡大、充実する。 |
| 健 全 育 成 | 安全安心で充実した学校生活を通じ、心豊かな、国際人を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 体罰や暴言の根絶 生き生きと生活できる学校環境の整備 音楽(合唱)を通じ、社会性や自己有用感の高揚 国際理解、平和教育の推進 より良い国際社会作りにも貢献できる生徒の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 管理職の巡回によって、体罰の発生は未然に防ぐことができた。信頼関係の醸成不足から、生徒を傷付ける発言や保護者とのトラブルが若干発生した。部活動の円滑な運営について、研修を深めたい。 全教員が顧問にあたる。 研修会の機会を適時(年10回以上)設ける。 合唱祭の取り組みを充実し、所属団体がまとまる体験をもつ。 学校行事(保護者会、防災教育の日等)で、合唱の機会を多く設定し、自己有用感を高める。 校長が音楽授業を参観し、音楽科教員と連携し、合唱による人間性の向上を図る。合唱の成功体験で自己有用感の高揚を図る。 音楽を通じた国際理解教育推進を体験する。 障害者スポーツの実態に触れ、障害者への配慮を知る。 オリンピックに関連させ、平和教育や国際理解教育を学活や総合的な学習の時間、各教科で実施する。 人権意識の高揚を、スポーツ(部活動・保健体育)と音楽活動(合唱)を通じて図る。 教育活動(行事・教科・特別活動等)に、平和教育推進を意識した工夫を常に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 全教員が顧問にあたる。 管理職(副校長、校長)が全部活動を巡回(週1回)する。 全生徒に対し体罰調査を年1回実施(12月)する。記載があった生徒には、管理職が直接聞き取りを行い、適切な対応を取る。 合唱祭の取り組みに、全学級、12時間以上の練習時間を確保する。 学年の枠を越えた縦割り練習時間を設定し、学年間の交流を図る。異世代交流を体験する。 新入生歓迎会、離任式、保護者会等で生徒が合唱発表する機会を設定する。 音楽関係者(オペラ歌手)による講演会を年1回以上実施する。 障害者スポーツ経験者を招き、講演会等の形式で意見交換の場を設ける。 総合的な学習の時間に「留学生が先生」「修学旅行での日本文化調べ」に取り組み、国際理解教育を推進する。 |
| 健 康 ・ 体 力 つ く り | 適切な運動や正しい食生活を通じ、心身ともに健康な生徒を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> 食生活に関心をもち、健康な生活との関連性を理解 オリンピック・パラリンピックを通じ、運動と健康の関係を理解 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動委員会(給食委員会・放送委員会)を通じて、食育の推進を図る。 給食準備時間に、給食委員が調査した、当日の献立に関する食育内容を、放送する。 月に12日食材や献立について調査することは、給食委員と聴者側の生徒に大変良い食育となる。 親子給食提供校(若葉小)と連携を密にし、食育の推進を図る。 運動系の部活動に、課題設定の機会を多用し、自己向上心を活用する。 全生徒が、運動をする喜びを体験できるように、指導者は指導内容や発言を工夫する。 保健体育の授業に「主体的・対話的で深い学び」を取り入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> 給食委員会が、給食のメニューに関係する食物情報を調査し、月12回、給食の放送で全校生徒に周知を図る。 家庭科、保健体育科の授業内容を工夫する。 保健委員会生徒による、食物アレルギー対応訓練・発表活動を実施する。 生徒同士が認め合い、励まし合う時間を、授業や部活動に多く設定する。 部活動顧問や保健体育教員等が日常指導の中で運動による精神的成長の重要性を指導する。 |
| 保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携 | 保護者や地域と連携して、健全な生徒を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域での奉仕活動を通じ、帰属意識を育成 地域住民、保護者等の外部人材を活用し、多面的な教育を実践 | <ul style="list-style-type: none"> 地域清掃、防災訓練に留まらず、活動範囲を拡大する。 地域自治会や健全育成会と連携を密にもつ。 生徒の発案や企画を尊重した取り組みを行う。生徒の達成感を高揚させる。 部活動指導補助員に、地域人材や卒業生を可能な限り活用し、地域と学校の連帯感を育成する。 学校支援地域本部を通じ、地域人材を活用し、不登校対応教室や地域清掃活動以外にも活動を拡大する。 地域の一員である自覚を高める教育活動を心がける。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域祭礼、健全育成行事に生徒会役員やボランティア生徒を年間延べ80名以上派遣する。 地域に貢献する活動(地域清掃、落ち葉掃き等)を年10回以上実施する。 総合的な学習の時間の講師として年1回職業観の講演会の場を設ける。 部活動外部指導員を地域人材から多く採用する。 学習支援教室(放課後に拡大)の指導者に地域人材を活用する。 地域施設と「花交流」を実践(年10回)する。 |
| 特 色 あ る 教 育 活 動 | 生徒の自主性を尊重し、自己向上意欲を最大限に活用した教育活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 適正な部活動運営で、自己向上心や自己有用感を高揚 自己表現体験を多くもち、国際社会で役立つ人材を育成 自主的な活動体験を通じ、社会貢献意欲を育成 いじめのない学校作り、社会づくりの取り組み 防災教育・安全教育を通じ、地域への帰属意識を育成 | <ul style="list-style-type: none"> 「指導と評価の一体化」に重点を置いた指導に取り組み、生徒の意欲向上を図る。 小集団での協議時間を確保し、「主体的・対話的で深い学び」を活用した部活動経営を心がける。 勝利至上主義にならず、全生徒が自己有用感や達成感をもてるよう指導する。 生徒や顧問教職員の心身の健康(ライフ・ワーク・バランス)を配慮した運営を心がける。週2日の休養日を設定する。 全教科で、意見発表の機会を多く設定する。 英語、社会、道徳、総合的な学習の時間等を通じ、国際理解の考え方や喜びを知る。 英語や数学の少人数授業(全学年全授業)で、表現活動を多く組み入れる。 生徒の意見と教職員の意見の連携を大切にした学校改善を、相互的に行う。 生徒自身が学校改善に直接参加している自覚をもてるよう、学校行事、生徒会行事に工夫を加える。 「生徒会役員と管理職の意見交換会」を定期的実施(月1回)し、生徒の意見を直接吸い上げる。 生徒協議会を定期的(年10回程度)に開催し、組織として機能させる。 全生徒が直接参加する「いじめ防止」の取り組みを、生徒会主催で実施する。 近隣小学校(若葉小、滝坂小、調和小)と連携を図り、SNS等によるトラブルを抑制する。 ボランティアチームの活動範囲を防災だけに留まらず、広く地域に貢献する。 社会貢献の精神を育み、地域や社会の安全、危機管理に貢献できるようにする。 避難訓練や防災教育の日に、消防署や地区協議会等と連携を密にする。 ボランティアチームを拡大・増員する。 | <ul style="list-style-type: none"> 校内清掃活動や地域奉仕活動に積極的に参加(年間20回以上)し、社会への貢献体験を積み上げ、意欲向上を図る。 地域イベントへの参加や高齢者施設への訪問を年間5回以上行う。 部活動内で生徒の組織体制を編成し、自主的な活動体験をもつ。 部活動関係の対応には管理職が積極的にに関わり、顧問の負担軽減を図る。 総合的な学習の時間や教科の授業に、意見発表の機会を取り入れる。他者の意見を受容するように指導を工夫する。 英語少人数授業(全学年全授業)で、表現活動を組み入れる。 生徒会役員と管理職の「意見交換会」を定期的実施(月1回)し、生徒の意見を管理職が直接吸い上げる。 生徒協議会を定期的(年10回程度)に開催し、組織として機能する。 全生徒が直接参加する「いじめ撲滅未然防止」の取り組みを、生徒会主催で年1回、期間を確保(2ヶ月程度)して実施する。 近隣小学校へ生徒会役員を派遣し、SNSトラブル防止の講演会を行う。 避難訓練を毎月実施する。消防署や地区協議会等と連携を密に取り、避難所運営に改善を重ねる。四つ葉学校防災会議を月1回開催する。 生徒ボランティア集団(60名程度)を拡大する。定期的(月1回程度)にボランティア活動(避難所設営、消火訓練等)や地域貢献活動を行う。 |